Course number	U-LAS00 10037 OJ34　U-LAS00 10037 OJ17		
Course title (and course title in English)	統合型複合科目（人社群p）：実践的・人文社会科学入門　HP03 Integrated Liberal Arts and Science with Small Group Seminars (Humanities and Social Sciences p) :Introduction to Pragmatic Humanities and Social Sciences HP03	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Engineering Associate Professor,KAWABATA YUICHIRO Graduate School of Human and Environmental Studies Associate Professor,SHIBAYAMA KEITA Graduate School of Management Program-Specific Associate Professor,HAMASAKI YOSUKE Graduate School of Engineering Professor,FUJII SATOSHI

Group	Humanities and Social Sciences	Field(Classification)	Philosophy(Foundations)

Language of instruction	Japanese	Old group	Group A	Number of credits	4

Number of weekly time blocks	2	Class style	Lecture + Seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2026・First semester

Days and periods	Mon.2・4	Target year	All students	Eligible students	For all majors

[Overview and purpose of the course]

哲学や文学等の「人間の精神や文化を主な研究対象とする学問」たる人文学や、社会学、経済学、政治学、社会心理学等の「人間集団や社会のあり方を主な研究対象とする学問」たる社会科学は、そのそもそもの定義からして「実践的」な知的営為である。人間の精神や文化、人間集団や社会はすべて実践する主体だからである。

　しかしながら、人文学および社会科学（あわせて人文社会科学）は、近代においてその活動を拡大するにしたがい、半ば必然的に細分化が進行してきた。また、「政策手段」をめぐる科学的知見と、「目的設定」に関わる価値や思想の議論が分離しているために、その実践性が著しく損なわれている。

　そこで本科目では、こうした実情を憂い、「認識的実践」及び「実践的認識」を旨とする教育・研究・実践を共同で推進している教員（人間・環境学研究科、経営管理大学院、工学研究科に所属）が集まり、政策との関わりを視野に入れながら、人文社会科学の基礎概念を包括的・有機的に講義する。また本科目では、講義内容を踏まえた実践的テーマの演習（ゼミ）を同時進行で実施することを通して、認識的実践及び実践的認識に関わる見識および教養の涵養を目指す。

○統合型複合科目分類　【文・文】
　主たる課題について文系分野の要素が強く、副たる課題についても文系分野の要素が強いと考えられるもの

[Course objectives]

哲学や文学等の「人間の精神や文化を主な研究対象とする学問」たる人文学や、社会学、経済学、政治学、社会心理学等の「社会科学は人間集団や社会のあり方を主な研究対象とする学問」たる社会科学についての横断的教養を身につけ、その教養を活用して、政治・経済的、社会・文化的諸問題を適切に解釈し、それに対処する上で必要となる実践の方向性を見いだす基礎的能力を身につけること。

[Course schedule and contents)]

（この授業では、講義と少人数演習を併せて学びます。講義のみ、少人数演習のみの出席では授業の到達目標に達しません。なお、このシラバスでは共通の講義部分と、少人数演習・C班「文芸批評と人文社会科学」（担当：川端・柴山・浜崎）の授業計画と内容を記します）

Continue to 統合型複合科目（人社群p）：実践的・人文社会科学入門　HP03(2)↓↓↓

◆講義
（全14回+フィードバック）　月曜2限・共南21
・総論：「認識」と「実践」（藤井・柴山・浜崎・川端）
・「民主主義」と「権威主義」（藤井）
・「保守主義」と「リベラリズム」（藤井）
・「緊縮財政」と「積極財政」（藤井）
・「現代貨幣理論（MMT）」（藤井）
・「グローバリズム」と「ナショナリズム」(1)(2)（柴山）
・「アベノミクス」とは何だったのか？　（藤井・柴山）
・近代小説とは何か―「個人」の運命とは？（浜崎）
・近代批評とは何か―「個人」の限界とは？（浜崎）
・『日本』とは何か―私たちの共同性を見定める（浜崎）
・「国民国家」と「近代文学」　（藤井・浜崎）
・「現実主義」と「理想主義」と「構成主義」（国際関係）（川端）
・「政教分離」と「祭政一致」（川端）
・「テクノロジー」と「思想」（藤井・川端）
・フィードバック

Key Word: 批判的思考，アカデミックリテラシー，リサーチリテラシー

◆少人数演習
C班「文芸批評と人文社会科学」（担当：川端・柴山・浜崎）　月曜4限・共北3B
　「日本近代批評史」「日本近代思想史」において最も大きな影響を与えた思想家を一人挙げろということになれば、第一にまずベルクソンの名が挙がる。夏目漱石（小説家）、西田幾多郎（哲学者）、和辻哲郎（哲学者）、九鬼周造（哲学者）、小林秀雄（文芸批評家）、木村敏（精神医学）におけるベルクソンの影響力は圧倒的だと言っていい（ちなみに、西欧に眼を向けると、ウィリアム・ジェームズ、T・S・エリオット、ハイデガー、D・H・ロレンス、マルセル・プルースト、ミンコフスキー、メルロ・ポンティ、レヴィ・ストロース、ジル・ドゥルーズなどにおいて、ベルクソンの影響が指摘できる）
　では、ベルクソン哲学は、「近代」に苦しみ、それを反省し、克服しようとしてきた人々に、どのようなインスピレーションと活力を与えてきたのか？
　本ゼミでは、自身、批評家として活躍もしている前田英樹氏によるベルクソン哲学の入門書『ベルクソン哲学の遺言』（講談社学術文庫）を輪読しながら、ベルクソン哲学の魅力に触れ、さらに、近代日本の文学者や批評家が「近代」の限界を見つめ、それをどのように克服しようとしてきたのかについて議論したいと考えている。
　〈思考＝批評〉の基礎として、改めてベルクソン哲学を学ぶこと、それが本ゼミの目的である。

第1回―イントロダクション（ベルクソン哲学入門―講義）
第2回―イントロダクション（ベルクソン哲学入門―講義）
第3回―前田英樹『ベルクソン哲学の遺言』（講談社学術文庫）を読む
第4回―前田英樹『ベルクソン哲学の遺言』（講談社学術文庫）を読む
第5回―前田英樹『ベルクソン哲学の遺言』（講談社学術文庫）を読む
第6回―前田英樹『ベルクソン哲学の遺言』（講談社学術文庫）を読む
第7回―前田英樹『ベルクソン哲学の遺言』（講談社学術文庫）を読む
第8回―前田英樹『ベルクソン哲学の遺言』（講談社学術文庫）を読む
第9回―前田英樹『ベルクソン哲学の遺言』（講談社学術文庫）を読む
第10回―前田英樹『ベルクソン哲学の遺言』（講談社学術文庫）を読む

Continue to 統合型複合科目（人社群p）：実践的・人文社会科学入門 HP03(3)↓↓↓

統合型複合科目（人社群p）：実践的・人文社会科学入門 HP03(3)

第11回―前田英樹『ベルクソン哲学の遺言』（講談社学術文庫）を読む
第12回―前田英樹『ベルクソン哲学の遺言』（講談社学術文庫）を読む
第13回―前田英樹『ベルクソン哲学の遺言』（講談社学術文庫）を読む
第14回―前田英樹『ベルクソン哲学の遺言』（講談社学術文庫）を読む
第15回―フィードバック

[Course requirements]

特になし。特別な予備知識は必要とせず、文系・理系を問わず全学部生向けに授業を行う。

[Evaluation methods and policy]

レポート、14回の授業での平常点（出席と参加の状況など）、少人数演習内での発表で評価を行う。

各評価項目の割合の詳細は、初回の授業で説明する。フィードバック回は評価の対象外である。

[Textbooks]

Not fixed

[References, etc.]

（References, etc.）
Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

教科書、授業資料の要点を予習・復習する。

[Other information (office hours, etc.)]

授業で学んだことを、大学での学び全体に活かして実践して、振り返ることを期待する。

[Essential courses]